

口腔科学

Stomatology

戸塚靖則 高戸 毅

監 修

飯田順一郎 伊藤公一 岡野友宏 木村博人

小谷順一郎 齊藤 力 佐々木啓一 白砂兼光

須田英明 丹沢秀樹 前田健康 山根源之 山本浩嗣

編 集

- 口腔科学全般に及ぶ内容を包括. 臨床・研究に携わるすべての医師・歯科医師・学生および関連医療従事者のための標準テキスト・専門学術書
- ますます重要度が高まる口腔疾患の病態・症例・治療を, イラスト・グラフ500点, 画像1400点, 表データ230点で視覚的にわかりやすく解説

 朝倉書店

B5判 1096頁 上製本 オールカラー
定価(本体27,000円+税)
ISBN 978-4-254-35001-2 C3047

監修者

戸塚 靖則

北海道大学名誉教授

高戸

毅

東京大学教授

編集者

飯田順一郎

北海道大学教授

伊藤 公一

日本大学特任教授

岡野 友宏

昭和大学名誉教授

木村 博人

弘前大学教授

小谷順一郎

大阪歯科大学教授

齊藤 力

東京歯科大学客員教授

佐々木啓一

東北大学教授

白砂 兼光

九州大学名誉教授

須田 英明

東京医科歯科大学教授

丹沢 秀樹

千葉大学教授

前田 健康

新潟大学教授

山根 源之

東京歯科大学名誉教授

山本 浩嗣

日本大学特任教授

執筆者 (所属内五十音順)

●北海道医療大学

有末 眞
柴田 考典
溝口 到

●北海道大学

網塚 憲生
飯田順一郎
井上農夫男*
北川 善政
佐藤 嘉晃
進藤 正信
鄭 漢忠
戸塚 靖則*
横山 敦郎

●弘前大学

木村 博人

●岩手医科大学

武田 泰典

●東北大学

佐々木啓一

●山形大学

飯野 光喜

●奥羽大学(前)

氷室 利彦

●筑波大学

武川 寛樹

●獨協医科大学

今井 裕

●群馬大学

横尾 聡

●埼玉医科大学

市岡 滋

●明海大学

天野 修
嶋田 淳
申 基喆
安井 利一

●千葉大学

岩瀬博太郎
桑原 聡

丹沢 秀樹

中谷 晴昭

松江 弘之

●慶應義塾大学

永井 哲夫
前田 正一
和嶋 浩一

●順天堂大学

小室 裕造

●昭和大学

荒木 和之
井上 富雄
岡野 友宏*
佐野 司

新谷 悟

高橋 浩二

馬場 一美

宮崎 隆

●帝京平成大学

大山 良樹

●東京大学

荒川 義弘
位高 啓史
大久保和美
大河内直子

小笠原 徹

樫尾 明憲

清野 宏

小山 博之

西條 英人

須佐美隆史

高戸 毅

高橋 路子

高柳 広

田中 栄

原 尚子

平野友紀子

比留間孝広

福本 誠二

星 和人

三原 誠

森 良之

安原 洋

矢作 直樹

吉村浩太郎

●東京医科大学

近津 大地

千葉 博茂*

●東京医科歯科大学

東 みゆき

上野 俊明

大木 明子

乙丸 貴史

木野 孔司

倉林 亨

小村 健

須田 英明

谷口 尚

戸原 玄

豊福 明

原田 清

深山 治久

三浦 宏之

三浦 雅彦

森山 啓司

渡邊 裕

●東京家政大学

高野 貴子

●東京歯科大学

石上 恵一

一戸 達也

笠原 正貴

小坂橋俊哉

齊藤 力

櫻井 薫

柴原 孝彦

下野 正基*

末石 研二

高野 正行

高野 伸夫

福田 謙一

柳澤 孝彰*

矢島 安朝

山田 了*

山根 源之*

●東京慈恵会医科大学

杉崎 正志

●東京理科大学

辻 孝

●日本大学

伊藤 公一

岩田 幸一

植田耕一郎

大木 秀郎

葛西 一貴

小宮山一雄

小室 歳信

近藤 壽郎

外木 守雄

松村 英雄

山本 浩嗣

米原 啓之

●日本歯科大学

菊谷 武

小林 義典*

佐藤 聡

志賀 博

高森 等

土持 眞

羽村 章

渡邊 文彦

●神奈川歯科大学

池田 正一

久保田英朗

●鶴見大学

朝田 芳信

菅 武雄

小林 馨

里村 一人

濱田 良樹

森戸 光彦*

●横浜市立大学

藤内 祝

●新潟大学

奥田 一博

小林 正治

齋藤 功

朔 敬

高木 律男

野村 修一

前田 健康

山田 好秋

吉江 弘正

●富山大学

野口 誠

●松本歯科大学

増田 裕次

●朝日大学

北井 則行

●愛知学院大学

栗田 賢一

下郷 和雄

前田 初彦

吉田 憲司

●三重大学

田川 俊郎*

●大阪大学

古郷 幹彦

舘村 卓

野崎 剛徳

前田 芳信

村上 伸也

森崎市治郎

矢谷 博文

由良 義明

●大阪歯科大学

覚道 健治

小谷順一郎

田中 昭男

●神戸大学

古森 孝英

●兵庫医科大学

浦出 雅裕*

●鳥取大学

萩野 浩

●島根大学

関根 浄治

●岡山大学

河野 隆幸

窪木 拓男

小橋 基

松尾 龍二

●広島大学

岡本 哲治

高田 隆

高橋 一郎

●徳島大学

市川 哲雄

永田 俊彦

松山 美和

●香川大学

松井 義郎

●愛媛大学

浜川 裕之

●高知大学

山本 哲也

●九州歯科大学

西原 達次

引地 尚子

●九州大学

白砂 兼光*

中村 誠司

西村 英紀

二ノ宮裕三

古谷野 潔

横山 武志

●福岡歯科大学

池邊 哲郎

大関 悟

坂上 竜資

本田 武司

●佐賀大学

後藤 昌昭

●長崎大学

朝比奈 泉

原 宜興

●熊本大学

篠原 正徳

●鹿児島大学

杉原 一正

●病院・研究所 他

天笠 光雄

稻田 有史

江口 智明

大田洋二郎

加地 展之

完山 学

柴田 崇

渋川 義宏

杉岡 伸悟

角 保徳

高橋 孝喜

谷口 克

道上 敏美

中村 太保

長濱 浩平

畠 賢一郎

藤本 篤士

米田 俊之

米山 武義

和気 裕之

渡部 隆夫

渡邊 裕

[*: 名誉教授]

口腔科学の役割 戸塚 靖則

口腔科学とは医学の一分野で、口腔という領域に特化した生命科学である。領域に特化したといひながら、口腔は脳生理と強い関係を持ち、生命維持の基本的機能をもつ臓器であり、その意味では局所にとどまらない広い分野としてとらえることができる。口腔は消化器の入り口であり、食物摂取、咀嚼、嚥下はもとより、体外からの種々の害の物質から生体を防御する役割をも担っている。さらに、味を楽しむ(味覚)、話す(言語)、あるいは管楽器を演奏するなど、高度な機能を担う臓器でもある。

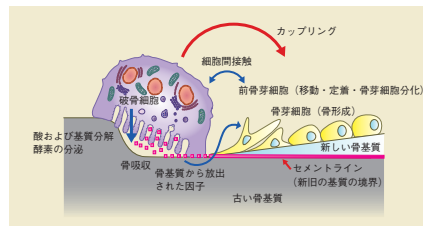
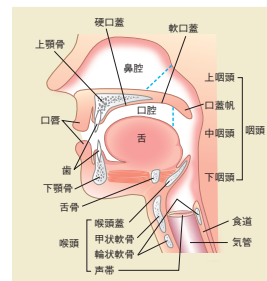
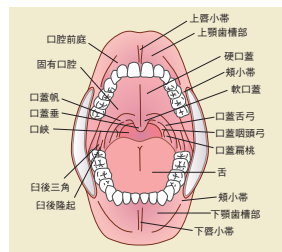
口腔科学に携わるわれわれは、人々の健康と幸せにさらに貢献するため、新技術の口腔疾患への応用について探求するとともに、倫理面での充実をはかっていかなければならない。(序章より抜粋)

内容目次

第1章 口腔の基礎科学

口腔の構造、生理、発生から成長・加齢、機能、唾液腺・骨の解剖生理、細菌学・免疫学・言語までを解説。

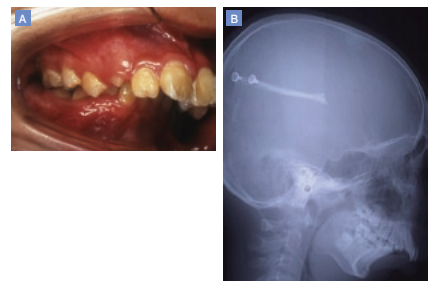
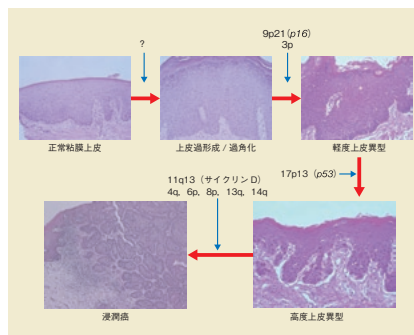
- 1.1 口腔の構造と機能
- 1.2 歯と歯周組織・口腔粘膜
- 1.3 歯・口腔・顎・顔面の発生、成長発育、加齢変化
- 1.4 口腔の機能
- 1.5 唾液腺の解剖生理
- 1.6 骨の解剖生理
- 1.7 口腔の微生物学
- 1.8 口腔の免疫学
- 1.9 口腔と言語



第2章 口腔疾患の病因と病態

炎症、腫瘍、嚢胞、先天・後天性異常、外傷の概論。う蝕と歯周病は病因・病態を詳述。

- 2.1 口腔疾患の特殊性
- 2.2 口腔の感染症
- 2.3 口腔粘膜の病変
- 2.4 口腔領域の腫瘍と嚢胞
- 2.5 遺伝学
- 2.6 口腔・顎・顔面の先天異常
- 2.7 口腔・顎・顔面の後天性異常
- 2.8 口腔・顎・顔面の外傷



これからの口腔科学の展開 高戸 毅

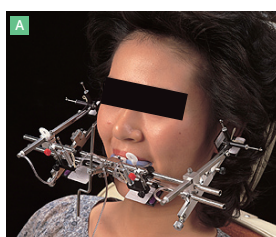
歯科医学は自己再生能力をほとんどもたない「歯」をおもな対象としてきたため、従来は材料学的側面が重視される傾向にあったが、近年では抗菌薬による歯髄保存療法やGTR法に代表される歯槽骨再生療法など、より生物学的側面を重視した治療法が出現してきていることも注目すべき点である。生物学的側面の重視という潮流は今後よりいっそう強まっていくことに疑いの余地はないと思われる。う蝕・歯周病による歯および歯周組織の喪失、口唇口蓋裂などの先天異常に伴う骨・軟骨の低形成や欠損、腫瘍および外傷による骨・軟骨および口腔軟組織欠損など、ほとんどすべての歯および口腔疾患が再生医療の対象であることを考えると、口腔科学への再生医学・医療の導入が歯科医療におけるパラダイムシフトとなりうると期待される。

(序章より抜粋)

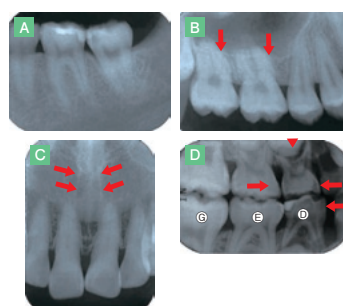
第3章 口腔の診察・検査・診断

内科診断学と共通する部分と歯科に特有な診察・診断の道筋。EBM、年齢・性別特異性、在宅・病棟などでの留意点。歯科に特有な環境、体位、器具・道具、画像検査。顔面・頭頸部の画像検査の特異性と画像解剖を解説。

- 3.1 歯科における診察・診断概論
- 3.2 口腔の診察と口腔機能検査
- 3.3 検体・生体機能検査
- 3.4 口腔領域の画像診断



パントグラフ



口内法撮影にて得られた画像

第4章 口腔疾患治療学総論

歯・口腔疾患の治療に特異的な部分を総論的に述べる。補綴科・保存科・矯正科・口腔外科・予防歯科・歯科放射線科など、それぞれの科の診療内容を解説。

- 4.1 歯・口腔疾患の治療
- 4.2 歯科材料学
- 4.3 手術・外科療法
- 4.4 創傷治癒
- 4.5 麻酔
- 4.6 口腔再建治療
- 4.7 生体材料
- 4.8 救急医療
- 4.9 薬物療法
- 4.10 放射線療法
- 4.11 疼痛治療(ペインクリニック)
- 4.12 鍼灸
- 4.13 漢方
- 4.14 理学療法
- 4.15 レーザー治療
- 4.16 凍結療法



血管柄付き遊離前腕皮弁



気道閉塞時における他者へのサインである
チョーキングサイン



口唇・顔面の帯状疱疹



星状神経節ブロック

第5章 口腔疾患各論

疾患の特徴に応じて、疾患の概念、原因、病態、診断法、治療法等について簡潔に解説。

- 5.1 歯と歯周組織疾患
- 5.2 歯の欠損と機能障害に対する治療
- 5.3 不正咬合の定義と概念
- 5.4 顎変形症
- 5.5 歯・口腔・顎・顔面の先天異常と成長発育異常
- 5.6 顎・口腔の感染症
- 5.7 口腔粘膜の疾患
- 5.8 顎・口腔の腫瘍
- 5.9 顎・口腔の嚢胞
- 5.10 口腔・顎・顔面の外傷
- 5.11 顎関節疾患
- 5.12 唾液腺疾患
- 5.13 神経性疾患



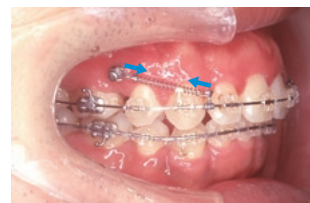
う蝕



インプラント治療失敗の原因



上唇小帯の異常

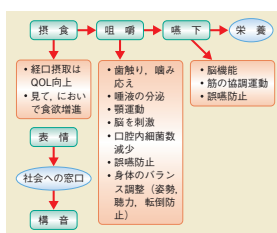


歯科矯正用アンカースクリューによる上顎歯列の遠心移動

第6章 口腔領域における治療の展開

小児から高齢者、基礎疾患・障害を有する患者の治療、口腔ケア・リハビリ・緩和ケア、スポーツ外傷まで、幅広い場面での治療と再生医療への応用を解説。

- 6.1 小児の歯科治療
- 6.2 高齢者および基礎疾患を有する患者の歯科治療
- 6.3 障害を有する患者の歯科治療
- 6.4 口腔ケア
- 6.5 リハビリテーション
- 6.6 緩和ケア
- 6.7 言語障害とその治療
- 6.8 睡眠時無呼吸症候群患者の歯科的対応
- 6.9 味覚障害
- 6.10 スポーツ医学における歯科的対応
- 6.11 口腔心身症、舌痛症、顔面痛、不定愁訴
- 6.12 ブラキシズム
- 6.13 金属アレルギーと全身所見
- 6.14 再生医療の応用



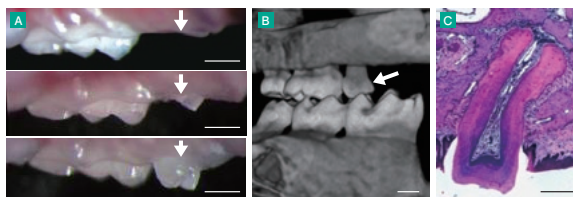
高齢者の生活を支える口腔機能



嚥下造影画像(側面像)



フェイスガード



成体口腔内で発生・萌出した再生歯

第7章 口腔科学と社会のかかわり

法医学・法歯学・関連法規から歯科医療紛争、インフォームドコンセント・医療倫理、個人情報などさまざまな局面での社会との接点を解説。

- 7.1 法歯学—歯科関連法律、医療紛争
- 7.2 インフォームドコンセント、個人情報、論文・学会発表



図 5.8.38 Tis 癌と臨床
発育様式

A : Tis 癌，白板症に類似した病変を呈している。B : 表在型，表在性の白色病変像を呈している。C : 外向型，乳頭状の発育像を呈している。D : 内向型，外方への発育は軽度で深部に硬結を認める。

【診 断】

原発巣の診査にあたっては，発生部位，発育様式，腫瘍の厚さ（深部への浸潤程度），周囲組織進展程度などについて注意深く診察することが重要である。

a. 視診，触診による舌癌の臨床発育様式

日本口腔腫瘍学会では，臨床病態の診断をより簡便で，客観性があるものとする目的で，表在型，外向型，内向型の 3 型に分類する発育様式分類を推奨

されていない。

臨床発育様式と頸部リンパ節転移については，一次転移頻度は内向型 24.9%，外向型 12.6%，表在型 4.9% で，内向型は外向型，表在型に比べて頸部リンパ節への転移頻度が高く，統計学的にも有意差が認められている。

臨床発育様式と遠隔転移については，内向型 5.5%，外向型 2.0%，表在型 1.0% で，内向型は外向型・表在型に比べて遠隔転移頻度が高く，統計学

読者対象

●口腔領域の臨床・研究に携わるすべての医師・歯科医師・学生および関連医療従事者

[2013年11月刊]

きりとり線

【お申し込み書】この申し込み書にご記入のうえ、最寄りの書店にご注文下さい。

口腔科学

B5判 1096頁 定価(本体27,000円+税)
ISBN 978-4-254-35001-2 C3047

冊

取扱書店

●お名前

☐公費/☐私費

●ご住所(〒)TEL

朝倉書店

〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-29／振替00160-9-8673
電話 03-3260-7631／FAX 03-3260-0180
http://www.asakura.co.jp eigyo@asakura.co.jp